

「地域デザイン」科学部が目指す教育Ⅱ

地域デザイン科学部の「地域対応力」養成のための教育プログラムで重要な科目と位置づけられている「地域デザイン訪問」の授業が始まりました。コミュニティデザイン、建築都市デザイン、社会基盤デザインなどの各学科ごとに地域のフィールドに出向き、そこで聞き出したこと、感じたことを3学科混成グループでディスカッションします。学内外から注目されている「文理融合」による「地域デザイン能力育成」の学びについて池田裕一教授に聞きました。

◆近い隣に、新しい世界がある

「地域デザイン」という分野は、単に大学の中での勉強だけで終わりにしてはいけない学問分野で、実際のモノの広がり、コミュニティの広がりというものを目の当たりにして、その経験をイメージしながら勉強していくことが非常に大事なのではないかと考えています。

理系の建築都市デザイン学科、社会基盤デザイン学科に関しても、教室の黒板に橋や建物を描いて「計算式はこうですよ」と説明を受け、それで「わかりました」ではなくて、実際に地域に出て建造物等を目の当たりにすることで「こんなに大きなものをつくるのか」「こんなに細かいところにまで気を遣うのか」というようなことを実感し、意識する。あるいはコミュニティデザイン学科の学生が地域の人と会い、コミュニケーションを図ることによって「こんな具合に、みんなに困った人がいるのか」というようなことを認識することがとても大切なと思います。

ということ  
を、地域社会  
のコミュニティ  
イ施設、技  
術、歴史、対  
策などに直接  
触れる経験を  
通してきちんと認識する。それを踏まえ、  
2年次は自分たちが抱えて立つ専門につ  
いてそれぞれの学科で勉強していく。そ  
ういうモチベーションを持ってもらうこ  
とがこの授業の目指すものの一つです。  
3年次には「地域プロジェクト演習」  
という授業で再度、3学科の学生が一緒  
になって実際に地域の問題を解決するグ  
ループワークに取り組みることになりま  
す。地域デザイン能力育成の端緒として  
この科目が位置づけられています。



また、地域デザイン科学部は文理融合の共通科目の学びから総合的な視野を養うことを目指していますので、それぞれの分野で関心のある場所を見学しただけで終わりにせず、そこで聞き出したことを3学科混成グループによるディスカッションを通して共有することで、この授業は成り立ちます。ある人が聞き出し感じたことを他人事ではなく、自分の事として考えられるようになることを目指しています。

学科混成のグループワークでは、モノを見る目を養って欲しいと考えています。実際に自分が見に行ったモノを見る目。あるいは自分ではない誰かが見に行っ話してくれたことを見る目。「みる」にはいろいろな意味があると思います。自分が見るといことは、やはり自分の関心がいったモノについて見ているわけです。違った見方をする学生とのグループワークの中で自分が見落としていたこと、見過ごしていたことに気づかされる。それと同時に、他の人の話を聞いて自分が関心を持っている世界の限りなく近い隣に新しい世界があることを知る。そのような中でモノを見る目が広がっていくことを期待しています。



3学科混成のグループワーク

グループワークには必ずコミュニケーションがありますから、前期の科目「コミュニケーション演習」で学んだスキルが、この授業に活かされてくると思います。最終的にはディスカッションの結果をポスター発表という形でプレゼンテーションすることになっていきますので、ある意味、合意形成の練習にもなるのではないかと考えています。

3年次には「ワークショップ演習」という、意見が対立した中でいかに合意形成を図るのかを考える授業があります。ここでの学びがその授業にも繋がっているのではないかと期待しています。



◆平野優麻 (社会基盤デザイン学科1年)

ダムにしても浄化センターにしても小さい時から当たり前にあるものと感じてきました。実際に足を運んで、そこで人がどんな思いで動いているのかを聞くと、インフラを支える人が絶対に必要だということを感じました。将来インフラを支える人材になるのであれば早い段階で、そういうことを知る機会を持つことはとても良いことだと思います。文系と理系で勉強している科目は違いますが、最終的に向かう方向は「人の暮らしを支える」というようなことと同じだと思います。いろいろんな人の考えを擦り合わせるの面白さ、文理融合はこれから絶対に必要な学びだと感じています。



◆赤川英之 (建築都市デザイン学科1年)

奥日光の旧外国大使館別荘や大谷石の地下空間など、ふだんなかなか行かない所に目を向ける機会を与えてもらえたことが良かったです。建築というと東京など都会に目が向きますが、地域の良い所を発見できましたので、地域に根ざした建築活動ができるよう、あまり目を向けていなかった地域の細かな部分や歴史、文化なども授業を通して学びたいと思っています。3学科混成のグループワークでは他学科の学生の意見や自分の考えにスリを感じるところもありますが、いろいろな視点から物事が見られるので混成チームのディスカッションは良い経験になります。

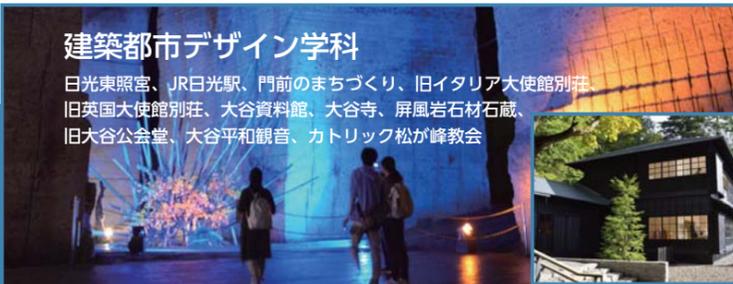


◆小松友広 (コミュニティデザイン学科1年)

道の駅を見学しましたが、周辺住民との関わりや地域のニーズに配慮することを大切にしているのだと強く感じました。この授業の中で、そのような地域の人たちの思いを汲み取っていきけるような力を身につけていければと思っています。グループワークはダム建設がテーマで、理系の学生は構造などの話をしますが、私が気になったのはダムの活用のされ方や周辺の人への影響です。理系はハード面、文系はソフト面に目が行きやすいことを再認識できて面白かったです。技術的な面と地域住民のニーズを繋ぐようなことが将来の自分の仕事のひとつになるのかなという思いをしました。



コミュニティデザイン学科  
道の駅「川場田園プラザ」(群馬県)、  
道の駅「もてぎ」、「うつのみやろまんちっく村」



建築都市デザイン学科

日光東照宮、JR日光駅、門前のまちづくり、旧イタリア大使館別荘、  
旧英国大使館別荘、大谷資料館、大谷寺、屏風岩石材石蔵、  
旧大谷公会堂、大谷平和観音、カトリック松が峰教会



社会基盤デザイン学科

湯西川ダム、川治ダム、五十里ダム、勝馬頭首工、  
鬼怒川上流流域下水道、鬼怒川堤防決壊復旧箇所(茨城県)、  
国道408号道路改良工事

